

小学校国語科における 自分の考えをよりよく書くことができる児童の育成 ——「伝える伝わるシート」を活用した考えの形成、推敲を通して——

長期研修員 亀安 正朗

《研究の概要》

本研究は、小学校国語科の説明的な文章において、「自分の考えをよりよく書くことができる児童の育成」を目指したものである。

情報の書き表し方と情報の扱い方を理解しながら自分の考えを形成するために、情報を視覚的に捉え、付箋を用いて書き表すことができる「伝える伝わるシート」を提示する。さらに、情報の書き表し方と情報の扱い方を確認しながら推敲するために、シートに書き表したお互いの情報を比較・検討し、気づきを伝え合う交流活動を設定する。こうして、児童はシートを活用しながら推敲し、自分の考えをよりよく書くことができる。と考える。

「伝える伝わるシート」を活用することが、「自分の考えをよりよく書くことができる児童の育成」に有効であることを、実践を通して明らかにした。

キーワード 【国語—小 書くこと 情報の扱い方 考えの形成 推敲】

群馬県総合教育センター

分類記号：G 0 1 - 0 2 令和元年度 2 7 0 集

I 主題設定の理由

変化の激しいグローバルな知識基盤社会の中で、「何を知っているか」だけではなく知識を活用して「何ができるか」への教育の転換が求められている。小学校学習指導要領に明記された国語科の目標においても、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」と示されている。

中央教育審議会答申（平成28年12月21日）においては、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていきけるようにすることは喫緊の課題である」と指摘されている。また平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果においても、小学校国語科の課題として「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること」「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと」が示されており、県の考察でも同様の課題が明らかとなっている。

話や文章から情報を取り出して整理したりその関係を捉えたりすることが、話や文章を正確に理解することにつながり、自分のもつ情報を整理してその関係を分かりやすく明確にすることが、話や文章を適切に表現することにつながる。よって、国語科における「思考力、判断力、表現力等」を育成する上では、こうした情報の扱い方を理解しながら考えを形成し、適切に表現することが重要である。

そこで本研究では、情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら自分の考えを形成し、交流による気付きから推敲し、よりよく書くことができるようになるために、小学校国語科における説明的な文章を書く活動の中で「伝える伝わるシート」を活用することの効果を検証する。自分の考えを伝えるためには、どのような言葉を用いるべきか、そして語や文及び段落の続き方をどのように構成すべきか、といったことを考えなければならない。そのために「伝える伝わるシート」には、接続詞や文末表現といった、文を整えるための話型を明示する。また、情報と情報との関係を捉え、情報を整理する上で必要な「比べる」「分ける」「つなげる」等の思考の方法（以下、思考スキルと示す）を明示する。シートに明示された話型や思考スキルを確認することによって、児童は情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら、考えを形成して書くことができると考える。また、交流において、情報の書き表し方や情報の扱い方の視点でお互いの情報を比較・検討し、気付きを伝え合うことによって、児童はシートを活用しながら推敲し、よりよく書くことができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校国語科における説明的な文章を書く活動の中で「伝える伝わるシート」を活用すれば、情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら考えを形成し、交流による気付きから推敲し、よりよく書くことができる児童が育成できることを実践を通して明らかにしていく。

III 研究仮説（見通し）

1 情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら、自分の考えを形成して書く

話型や思考スキルが明示された「伝える伝わるシート」を活用することによって、児童は情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら、自分の考えを形成して書くことができるようになるであろう。

2 交流による気付きを生かして推敲し、よりよく書く

交流において、情報の書き表し方や情報の扱い方の視点でお互いの情報を比較・検討し、気付きを伝え合うことによって、児童はシートを活用しながら推敲し、よりよく書くことができるようになるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 書くことにおける「考えの形成」とは

書くことにおける「考えの形成」とは、自分の考えを明確にし、相手に伝わるように書き表し方を工夫することであると考える。小学校学習指導要領解説国語編（平成29年3月）においても、書くことにおける「考えの形成」の指導事項には、書き表し方をどのように工夫すればよいのか、低・中・高学年ごとに具体化されている。また、書くことにおける「考えの形成」において、知識及び技能である「情報の扱い方」を活用し、指導事項の関連を図ることによって、児童に身に付けさせたい資質・能力を効果的に育成することができると考える。

(2) 「自分の考えをよりよく書くことができる」とは

「自分の考えをよりよく書くことができる」とは、自分の考えを適切に表現するために文や文章を整える「推敲」の学習過程を重視し、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したり、文章全体の構成や書き表し方などに着目したりしながら書くことができると考える。

(3) 「話型」「思考スキル」とは

「話型」とは、接続詞や文末表現といった、文を整えるための要素を型として明示したものである。話型を明示することは、自分の考えを明確にして相手に分かりやすく伝えるための言葉の使い方や表現方法を理解し、情報の書き表し方を児童に示すのに有効であると考えられる。

「思考スキル」とは、情報と情報との関係を捉えて情報を整理する上で必要な思考の方法を児童が理解し、文章の構成を捉えて整えることができるように明示したもの（表1）である。国語科の学習における情報とは、話や文章に含まれている内容や言葉であり、教科書の教材文や児童自らが作成した文章等の内容や言葉などである。思考スキルを明示することは、情報の扱い方についてどのように考え、何に着目すればよいのかを児童に示すのに有効であると考えられる。

表1 「書くこと」に活用する思考スキル

並べる	語と語や文と文との続き方に注意して、内容のまとまりが分かるように文の順序立てを考えながら、情報を並べる。
比べる	どれを選択すれば考えを明確にして伝えられるかを考えながら、情報と情報を比べる。
分ける	考えとそれを支える理由や事例、抽象と具体、事実と意見、原因と結果、といった内容の文章構成を考えながら、情報と情報を分ける。
つなげる	情報と情報を理由付けたり、内容の整合性がとれているかを確認したり、文章構成を考えながら、情報と情報をつなげる。

(4) 「伝える伝わるシート」とは

「伝える伝わるシート」とは、児童が論理的に自分の考えを形成し、よりよく書くための手立てとなるシート（次頁図1）である。

児童はシートに明示された話型と思考スキルを確認しながら、情報と情報との関係や情報の整理といった情報の扱い方を視覚的に捉え、必要な情報を付箋に書き出してシートに貼る。また交流においては、情報の書き表し方や情報の扱い方の視点で、シートによって視覚化されたお互いの情報を比較・検討し、気づきを伝え合う。また、シートを活用しながら推敲し、新しい付箋に情報を書き直して上から貼り重ねたり、並び替えたりする。付箋を使うことによって推敲しやすくなるとともに、貼り重ねた付箋をめくって自分の書き表し方を比べ、その変容を確認することができる。

このようなシートを活用した児童の思考の流れ（次頁図2）は、児童が自分の考えをよりよく書くための手立てに成り得ると考える。

「伝える伝わるシート」の作成手順

- ①段落や文章全体の構成が視覚化された構成の枠組を作成する。
- ②接続詞や文末表現といった、文を整えるための話型を明示する。
- ③情報の扱い方を捉えさせるための思考スキルを明示する。

情報の扱い方を視覚的に捉えるための矢印を補助的に示す

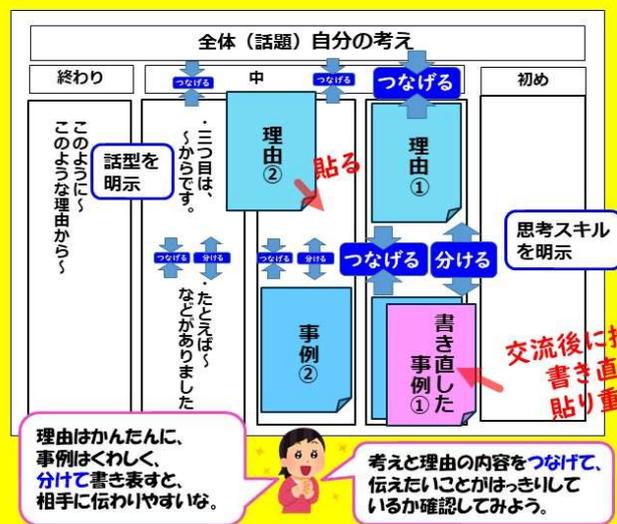


低学年参考例

単元名：順序が分かるように書こう（第2学年）

指導事項：語と語や文と文との続き方に注意しながら、

内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること



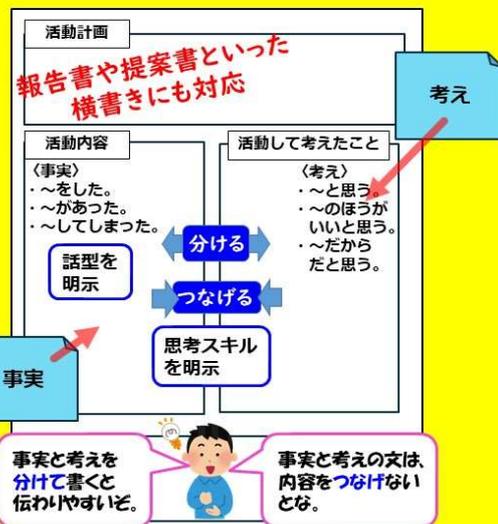
理由はかんたんに、事例はくわしく、分けて書き表すと、相手に伝わりやすいな。

考えと理由の内容をつなげて、伝えたいことがはっきりしているか確認してみよう。

中学年参考例

単元名：組み立てを考えて書こう（第4学年）

指導事項：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫すること



事実と考えを分けて書くと伝わりやすいぞ。

事実と考えの文は、内容をつげないとな。

高学年参考例

単元名：事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書こう（第5学年）

指導事項：事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

図1 「伝える伝わるシート」の作成手順と参考例



図2 「伝える伝わるシート」を使った児童の思考の流れ

2 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	研究協力校 第4学年 1組 (21名)	
	授業実践①	授業実践②
期間	令和元年7月8日～7月12日 (全7時間)	令和元年11月5日～11月13日 (全7時間)
単元名	組み立てを考えて書こう 「自分の考えをつたえるには」	説明のしかたを工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう 『クラブ活動リーフレット』を作ろう

対象	研究協力校 第5学年 1組 (28名) 2組 (26名)	
	授業実践③	授業実践④
期間	令和元年7月9～10日 令和元年8月28日～9月4日 (全8時間)	令和元年10月23日～11月6日 (全9時間)
単元名	事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書こう 「次への一步 ― 活動報告書」	考えを明確にして、提案する文章を書こう 「明日をつくるわたしたち」

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら、自分の考えを形成して書くことができたか。	シートを活用し、情報と情報との関係や情報の整理を考えて書き表しているか。 【シートの記述】 【アンケートの見取り】

見通し2	交流による気付きを生かして推敲し、よりよく書くことができたか。	シートを活用し、気付きから書き表し方を工夫して推敲し、よりよく書いているか。 【シートの記述の比較】 【交流時の観察】 【アンケートの見取り】
------	---------------------------------	--

3 抽出児童

	中学年（第4学年）	高学年（第5学年）
児童A	情報への理解能力が高く、書くことに対する関心・意欲も高い。シートの活用を通して情報の扱い方を理解し、書き表し方を工夫してよりよく書くとともに、交流においては友達への的確な助言を期待したい。	情報への理解能力があり、書くことに対する関心・意欲も高い。シートの活用を通して情報の書き表し方、情報の扱い方を捉えてよりよく書くと共に、交流における気付きによって、さらによりよく書くことを期待したい。
児童B	外国籍児童で日本語は問題なく話せるが、書くことには苦手意識をもっている。シートの活用、友達との交流から、どのように書き表せばよりよくなるかに気付き、推敲することを期待したい。	情報への理解能力が低く、書くことへの苦手意識をもっている。シートの活用、友達との交流における気付きから、友達の書き表し方のよさを知り、推敲に生かすことを期待したい。

4 評価規準

	第4学年		第5学年	
	授業実践①	授業実践②	授業実践③	授業実践④
目 標	書く内容の中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げるなど、相手に分かりやすく書くことができる。	書く内容の中心を明確にし、説明の仕方を工夫しながら読み手に分かりやすく伝える説明文を書くことができる。	事実と考えを区別したり、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、書き表し方の工夫の効果を考え、読み手に伝わる活動報告書を書くことができる。	事実と意見の区別、簡潔な結論、詳細な解決策など、目的や意図に応じて書き分けながら考えを明確にし、読み手を納得させる提案書を書くことができる。
評 価 規 準	知識・技能 (2) 情報の扱い方に関する事項ア	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。		事実と感想や意見、具体と抽象、原因と結果など、情報と情報との関係について理解している。
	思考・判断・表現 B 書くこと (1)ウ	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	写真の説明やその具体例と、自分の主張（考え）との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と考えを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。
	主体的に学習に取り組む態度	情報の書き表し方や情報の扱い方について積極的に理解し、学習課題に沿ってよりよく書き表したことを次の学習に生かそうとしている。		

5 指導計画

		第4学年		第5学年	
		授業実践①	授業実践②	授業実践③	授業実践④
単元名		組み立てを考えて書こう	説明のしかたを工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう	事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書こう	考えを明確にして、提案する文章を書こう
過程		単元の課題 ●各時の学習課題 ◇評価【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】			
つ		教科書のモデル文から情報を正確に理解し、学習の見通しを立てる。			
か		友達に分かりやすく伝えるように組み立てを考えて、自分の考えをよりよく伝え合おう。	説明のしかたを工夫して3年生に分かりやすく伝えるクラブ活動リーフレットを作ろう。	事実と考えを区別して書き表し方を工夫し、4年生に分かりやすく伝わる活動報告書を書こう。	自分の考えを明確にして書き表し方を工夫し、身の回りにある問題を解決するための提案書を書こう。
む		① 意見文の組み立てと書き表し方のよさを確かめよう。 【知識・技能】 ◇意見文の構成や内容、書き表し方のよさを理解している。	① 説明文の組み立てと書き表し方のよさを確かめよう。 【知識・技能】 ◇説明文の構成や内容、書き表し方のよさを理解している。	① 活動報告書の文章全体の構成や内容、書き表し方のよさを確かめよう。 【知識・技能】 ◇活動報告書の構成や内容、書き表し方のよさを理解している。 ② 4年生に臨海学校の活動報告書を書くために、活動計画を立てよう。 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇活動報告書を書く目的を理解し、伝えようとする内容を積極的に考えている。→臨海学校へ	① 提案書の文章全体の構成や内容のつながり、書き表し方のよさを確かめよう。 【知識・技能】 ◇提案書の文章全体の構成や内容のつながり、書き表し方のよさを理解している。
追		② 取り上げたい話題を確かめ、自分の考えを決めよう。 【思考・判断・表現】 ◇取り上げたい話題（理由や事例）を挙げてそれぞれのよさを比較し、選択して、自分の考えを決めている。	② 取り上げたい話題を確かめ、書く内容を決めよう。 【思考・判断・表現】 ◇取り上げたい話題（写真、説明、アピール）を挙げてそれぞれのよさを比較し、選択して、自分の考えを決めている。	③ 臨海学校での活動を振り返り、話題を集め、整理しよう。 【思考・判断・表現】 ◇事実となる出来事やそれについての考えのそれぞれのよさを比較し、選択して、書く内容を明確にしている。	② 提案書に必要な資料を集めて、提案する内容をはっきりさせよう。 【思考・判断・表現】 ◇内容と理由、現状と問題点、解決方法を考える資料を集め、比較・選択し、書く内容を明確にしている。
究		検証：見通し1「伝える伝わるシート」を活用することによって、情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら、自分の考えを形成して書くことができたか。			
す		③④ 文章の組み立てを考えて、自分の考えと理由を書こう。 【知識・技能】 ◇考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解している。 【思考・判断・表現】 ◇自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	③④ 文章の組み立てと書き表し方の工夫を考えて、説明文の下書きを書こう。 【知識・技能】 ◇写真の説明やその具体例と、その主張（考え）との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	④⑤ 文章全体の構成や見出しを考えて、事実と考えを区別して活動報告書の下書きを書こう。 【知識・技能】 ◇簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と考えを区別して書いたりするなど、書き表し方を工夫している。	③④ 文章全体の構成やまとめごとのつながりを考えて、書き表し方を工夫して書き出そう。 【知識・技能】 ◇事実と感想や意見、具体と抽象、原因と結果など、情報と情報との関係について理解している。 【思考・判断・表現】 ◇簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と意見を区別して書いたりするなど、書き表し方を工夫している。
る					



**検証：見通し2 「伝える伝わるシート」を活用することによって、交流による気づきを
生かして推敲し、よりよく書くことができたか。**

追
究
す
る

⑤シートを読み合っ て、よりよく書く ために気付いたこ とを伝え合おう。	⑤シートを読み合っ て、よりよく書く ために気付いたこ とを伝え合おう。	⑥シートを読み合っ て、よりよく書く ために気付いたこ とを伝え合おう。	⑤シートを読み合っ て、よりよく書く ために気付いたこ とを伝え合おう。
---	---	---	---

【知識・技能】

◇情報の書き表し方や情報の扱い方の視点で、よりよく書くための気づきを伝えている。

⑥自分の考えを相手 に分かりやすく伝 えるために、より よく書こう。	⑥自分の考えを相手 に分かりやすく伝 えるために、より よく書こう。	⑦自分の考えを相手 に分かりやすく伝 えるために、より よく書こう。	⑥自分の考えを相手 に分かりやすく伝 えるために、より よく書こう。
---	---	---	---

【思考・判断・表現】

◇自分の考えを明確にし、書き表し方の工夫を考えて読み手に分かりやすく伝えるように推敲してよりよく書いている。



**「伝える伝わるシート」を活用した
交流における気づきの視点及び個における自己内対話の視点**



- 情報を比べて、どちらがよいかを選択しているか
 - ・自分の集めた情報の比較
 - ・自分の書き表した情報とモデル文に書き表された情報との比較
 - ・自分の書き表した情報と他者の書き表した情報との比較
 - ・交流前に書き表した情報と交流後の書き直した（推敲した）情報との比較
- シートに書かれた話型を確かめて文章を書いているか
- 情報を分けて、つなげているか
 - ・考えの情報とそれを支える理由や事例の情報との分類、関係付け
 - ・簡単に書いた情報と詳しく書いた情報との分類、関係付け
 - ・事実が書かれた情報と感想や意見が書かれた情報との分類、関係付け など
- 相手に伝えるのに言葉足らずになっていないか、一文は長くなっていないか
(下線部は思考スキル「比べる」「分ける」「つなげる」の活用)

⑦グループで交流し、どのよう
にして一つの提案書にまとめるか
を話し合おう。

【知識・技能】

◇情報の書き表し方や情報の扱い方の視点で、よりよく書き表すための気づきを伝えている。

⑧グループで一つの提案書を
まとめよう。

ま
と
め
る

⑦学習を振り返り、自分の 考えを相手に分かりやす く伝える方法を確かめよ う。	⑦学習を振り返り、自分の 考えを相手に分かりやす く伝える方法を確かめよ う。	⑧学習を振り返り、自分の 考えを相手に分かりやす く伝える方法を確かめよ う。	⑨学習を振り返り、自分の 考えを相手に分かりやす く伝える方法を確かめよ う。
--	--	--	--

【主体的に学習に取り組む態度】

◇情報の書き表し方や情報の扱い方について積極的に理解し、学習課題に沿って書き表したことを次の学習に生かそうとしている。

→ 単元終了後、学級活動等の時間に清書し、3年生に渡して役立ててもらおう。

→ 単元終了後、学級活動等の時間に清書し、4年生に渡して役立ててもらおう。

VI 研究の結果と考察

「伝える伝わるシート」を活用して情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら考えを形成すること、シートを活用して交流による気付きから推敲することが、「自分の考えをよりよく書くことができる児童の育成」に有効であることを検証する。第4、第5学年における、それぞれ二つの実践授業の結果を通して、考えを形成する場面、交流での気付きから推敲する場面の二つの場面において、見通しに沿って考察する。

1 情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら、自分の考えを形成して書くことができたか。 (見通し1)

(1) 活用した「伝える伝わるシート」と学習活動の様子

第4学年授業実践①②では、「B 書くこと(1)ウ」の「自分の考えとそれを支える理由や事実との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」に応じた話型及び思考スキルをシートに明示した(図3)。

授業実践①では、自分の考えの中心を決め、その根拠となった理由とそれを裏付ける事例をメモとして集め、比較(思考スキル「比べる」)し、どの情報(内容)が相手に明確に伝わるかを選択した。また、シートに明示された話型と思考スキル「分ける」「つなげる」を確認しながら選択した情報を付箋に書き込み、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしなが、シートに貼った。

授業実践②では、写真の説明やその具体例と自分の主張(左図:よさの考え)との関係を明確にするために、授業実践①と同様の学習過程でシートを活用した。文章構成が複雑になり情報量が増えたにも関わらず、児童は前回に学習したことを生かし、話型と思考スキルをよく確かめながら、スムーズに理解して書くことができた。

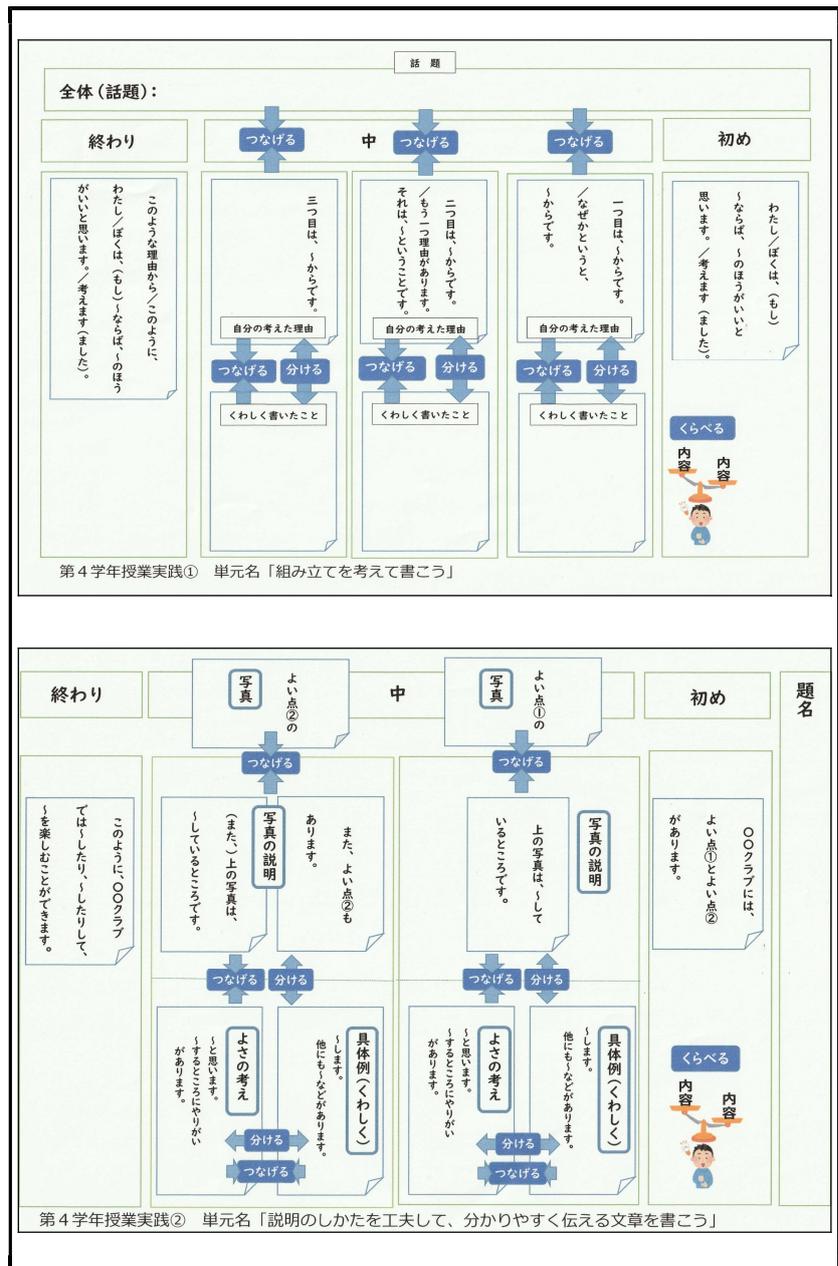


図3 第4学年の授業実践①②で活用したシート

第5学年授業実践③④では、「B 書くこと(1)ウ」の「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に応じたシート(図4)を活用した。

臨海学校の活動報告 (令和 年 月)

活動計画

活動内容

活動して考えたこと

<事実> ←分ける→ <考え>
 ～をした。 ～と思う。
 ～があった。 ～のほうがいいと思う。
 ～しまった。 ～だからだと思う。
 ～が原因だと思う。

<かんたんに> ←分ける→ <くわしく>
 ←つなげる→

順番を整理して
ならべる

くらべる
内容 内容

来年の5年生に伝えたいこと

第5学年授業実践③ 単元名「事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書く」

提案書 提案者:

題名

提案内容 () わたしたちがすべきこととして、
「 」ということについて、具体的な案を提案する。

1. 提案するきっかけ

-現状-

わたしたちの～では、～をしている。
わたしたちの～には、～がある。

<かんたんに> ←分ける→ <くわしく>
 ←つなげる→

これは、～というものだ。
これは、～である。

-問題点-

しかし、～しているとはいえない。
/～という問題がある。/～が起きている。

<結果> ←分ける→ <原因>
 ←つなげる→

～というのも原因の一つだろう。
～が原因かもしれない。それは、～だからだ。

-考え(意見)-

～していくため/のためには、
～が大切ではないだろうか。(と考える/思う)
<考えのもと(何のために? 何が大切?)>

<考え> ←分ける→ <考え>
 ←つなげる→

そのためには、～が/～することが
必要ではないかと考えた。

この考えにそって、次のことを提案する。

2. 提案

提案① と 提案②、そして提案③
(提案は1つでもよいし、3つまではOK。)
(短く分かりやすく。箇条書きでもOK。)

<かんたんに> ←分ける→ <くわしく具体的に①>
 ←つなげる→

～しては/～はどうだろうか。

<くわしく具体的に②>
また、～しては/～はどうだろうか。

<くわしく具体的に③>
さらに、～しては/～はどうだろうか。

-提案に対する考え-

～と気付いた。～と考えた。
(提案したことが実現すると、どんな効果があるのか、自分の考えをしめす!)

そこで、

「 」の「 」のために」
という点でできることとして、このことを提案する。

活動報告書と同じように、事実(現状と問題点)と考えを区別しているね。

くらべる
内容 内容

第5学年授業実践④ 単元名「考えを明確にして、提案する文章を書く」

図4 第5学年の授業実践③④で使用したシート

(2) 全体の様子から

アンケート結果(図5)を見ると、相手に分かりやすく書いたと実感できた児童は増加している。アンケートの記述回答①からは、シートに示された話型と思考スキルを確認しながら情報の書き表し方や情報の扱い方を捉え、文章全体の構成や文のつながりを理解している様子が見受けられる。また記述回答②からは、付箋を使うことによる書きやすさを児童が実感していることが分かる。そして記述回答③からは、2回目の授業の方が情報の扱い方の理解をさらに深めていることが確認できる。シートの記述の分析からも、評価規準をおおむね達成している児童は、第4学年では実践①で約8割、実践②では9割、第5学年では実践③で7割、実践④では9割という結果であった。

シートを活用したことは、児童が情報の書き表し方や情報の扱い方を理解しながら文や文章を整えて書くのに有効であったと考えられる。また、シート活用を継続したことは、児童が情報の書き表し方、情報の扱い方の理解をさらに深めながら、自分の考えを形成して書くのに有効であったと考えられる。

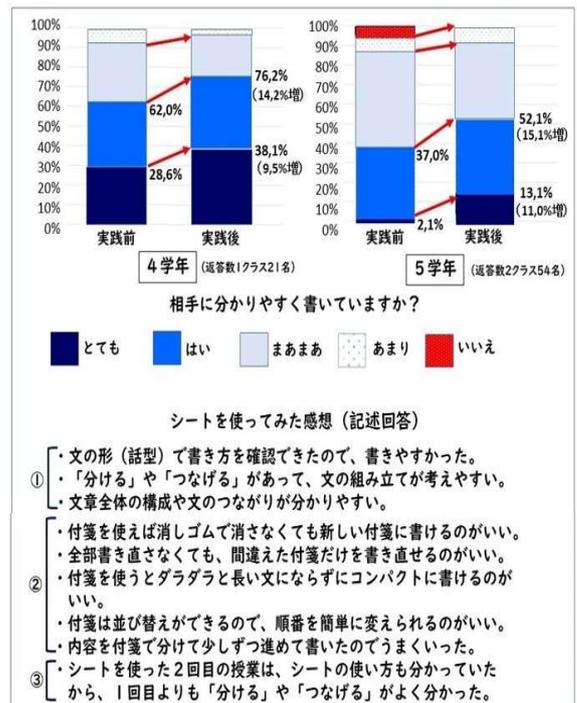


図5 「相手に分かりやすく書く」アンケート結果

(3) 抽出児童の様子

図6は、第4学年授業実践①の抽出児童Bのシート記述の分析である。

二つの選択肢について自分はどちらを支持するのかを、その判断基準となる理由と、その理由の根拠となる事例を伴って示す意見文を、シートに記述している。初めは、東京よりも横浜の方がよい理由と事例をなかなか文章化できずにいた抽出児童Bであったが、個別の支援において横浜に遊びに行った時のことを談話していく中で、話題となったことを文章化させていた。その際シートを活用して、明示された話型と思考スキルを見ながら、情報の書き表し方と情報の扱い方を確認していた。そうして考えた理由とその事例と

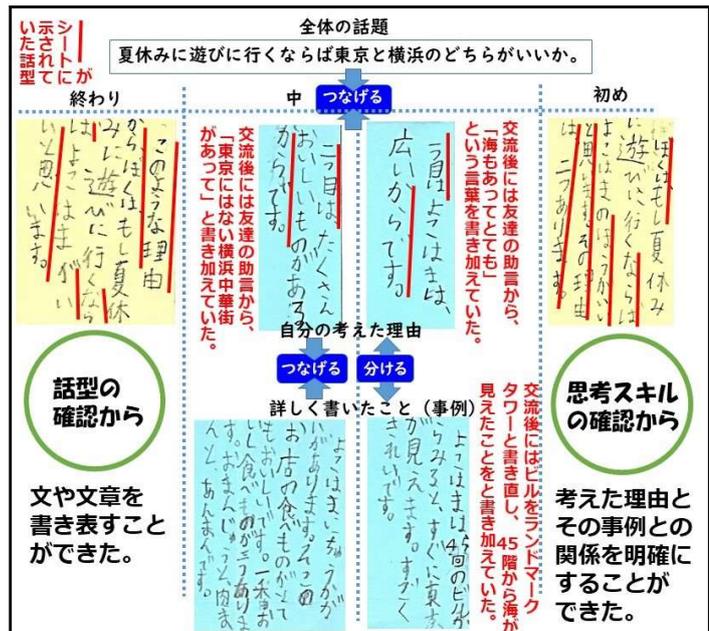


図6 授業実践①抽出児童Bのシート記述の分析

に内容を「分けて」、内容の整合性を確認しながら「つなげて」、付箋に情報を書き出してシートに貼っていた。初めは、理由と事例に分かれていなかったり、内容が繋がっていなかったりしたが、教科書のモデル文をシートに表して読み比べる中で、少しずつ話型と思考スキルについて理解を深めていく様子が見られた。そして、思考スキルで文章の構成、情報の扱い方を捉え、文章の内容を確認しながら、話型に沿って情報の書き表し方を捉えていた。

これらの様子から、抽出児童Bはシートに明示された話型と思考スキルを確認し、連動させながら思考することができたと言える。また、実践授業②においては、学習の振り返りの記述にも、「『分ける』『つなげる』や文の形を確認すると、どうやって書けばよいのかが分かり、前回よりもうまく書くことができた」と書かれており、シート活用を継続したことは、抽出児童Bが情報の書き表し方、情報の扱い方の理解をさらに深めながら、自分の考えを形成して書くのに有効であったと考えられる。

2 交流による気づきを生かして推敲し、よりよく書くことができたか。(見通し2)

(1) 活用した「伝える伝わるシート」と学習活動の様子

話型と思考スキルに着目させ、お互いの情報の書き表し方と情報の扱い方について気づきを伝え合うことを明確にした。児童はシートの付箋や思考スキルを指で示しながら、自分の考えや気づきを伝え合っていた(図7)。

児童は、シートに書き表したお互いの表現を、情報の書き表し方や情報の扱い方の視点で比較・検討し、助言を伝え合った後、お互いの気づきをノートにメモしたり、付箋に書き込んで相手に渡してあげたりした。このような交流による気づきを生かして児童は推敲し、新しい付箋によりよく書き表して、シートに上から貼り重ねたり、情報の順番を考えて付箋を並べ替えたりしていた。

単元の最後には再び交流を行い、お互いの表現を確認し合うことで、児童は自分の考えをよりよく書くことができた実感していた。



図7 シートを活用しての交流の様子

(2) 全体の様子から

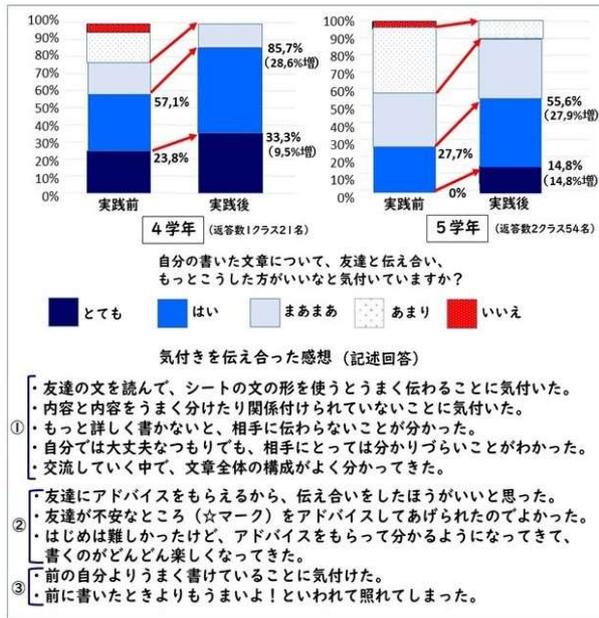


図8 「気づきを伝え合う」アンケート結果

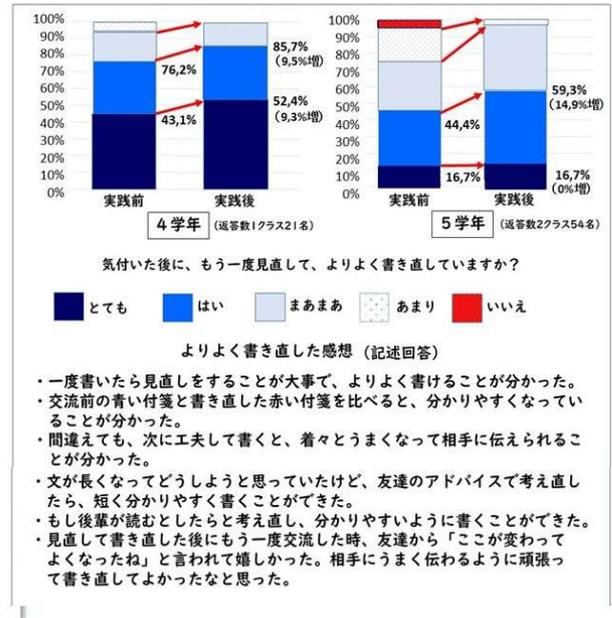


図9 「よりよく書き直す」アンケート結果

図8のアンケート結果を見ると、シートを活用した交流によって、よりよい書き方について気付けたと実感できた児童は増加している。交流時の観察やアンケートの記述回答①からは、シートに示された話型と思考スキルを確認しながら、児童が情報の書き表し方や情報の扱い方の視点で、お互いの情報を比較・検討している様子が見られた。記述回答②からは、シートを活用して気づきを伝え合うことのよさを児童が実感していること、記述回答③からは、シートを活用した交流で、児童が前回の授業よりもうまく書けたと実感していることが確認できる。図9のアンケート結果を見ると、シートを活用した交流を経て推敲することによって、相手に分かりやすくよりよく書けた、と実感できた児童は増加している。記述回答には、相手意識をもって自分の文章を見直すことの大切さに気付けたこと、シートに新しく貼られた付箋をめぐって交流前の自分の書き表し方と比較し、その変化に気付けたこと、といった児童の感想が見られた。

シートを活用し、交流による気づきを生かして推敲したことは、情報の書き表し方や情報の扱い方を確かめながら文や文章を整え、よりよく書くのに有効であったと考えられる。

(3) 抽出児童の様子

図10は、第4学年授業実践①の抽出児童Aのシート記述の分析である。

写真の説明と自分の主張との関係を明確にしてクラブを紹介する説明文を、シートに記述している。イラストクラブについて書いたのだが、交流においてお互いの表現を比較・検討する中で、具体例の書き表し方に気付いたり友達の助言をもらったりして、文章をよりよく書くことができた。また、交流での気づきを友達に積極的に伝えていた。

これらの様子から、抽出児童Aのシートを活用した交流によって、情報の書き表し方や情報の扱い方の視点から書き表し方の工夫に気づくことができたと言える。シート活用がよりよく書くのに有効であったと考えられる。

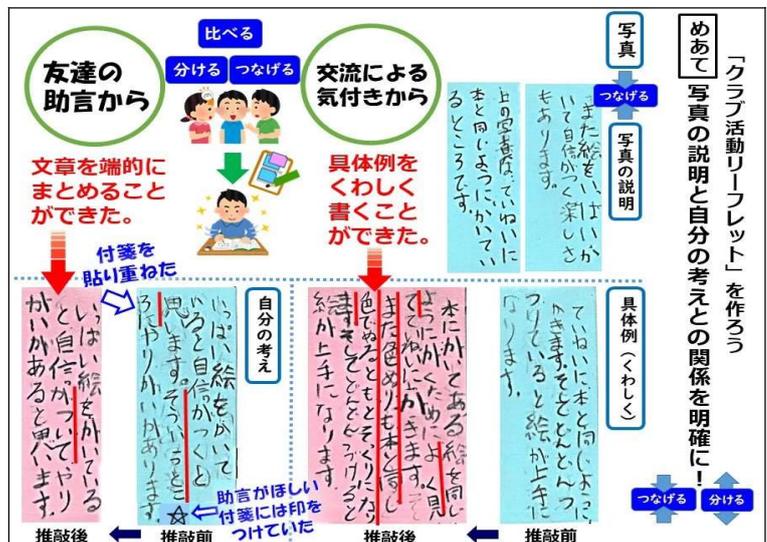


図10 授業実践②抽出児童Aのシート記述の分析

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- シートに話型を明示したことは、児童が話型を参考にして情報を書き出し、相手にとって分かりやすい情報の書き表し方を理解しながら文を整えて書くのに有効であった。
- シートに思考スキルを明示したことは、情報と情報とを関係付けたり情報を整理したりといった情報の扱い方を理解しながら構成を捉え、考えを形成して文章を整えて書くのに有効であった。
- シートに付箋を使ったことは、文章の構成ごとに短い文で書き出せて、スモールステップで自分の考えを書き進めるのに有効であった。また操作性があって推敲しやすく、自分の書き表し方の変容が確認でき、よりよく書くことができたとの実感を児童にもたせるのに有効であった。
- シートを活用して交流をしたことは、情報の書き表し方や情報の扱い方の視点でお互いの情報を比較・検討することができ、気づきを伝え合うのに有効であった。
- シートを活用し、交流による気づきを生かして推敲したことは、情報の書き表し方や情報の扱い方を確かめながら文や文章を整え、よりよく書くのに有効であった。
- シート活用を継続して行っていくことは、情報の書き表し方、情報の扱い方を理解しながら自分の考えを形成し、推敲してよりよく書く力を育成するために有効であった。

2 課題

児童にとって初めてシートを活用した授業では、なかなか自分の考えを形成して書くことができない児童の姿が何人か見られた。個別に支援しながら話型と思考スキルを再確認したり、モデル文をシートに書き表して読み比べてみたりする中で、少しずつ理解を深めて記述する様子が見られた。よって、シートの分かりやすさの更なる工夫や、児童にシート活用を慣れさせていく必要がある。

Ⅷ 提言

本研究の授業実践では、単元を通して伸ばしたい資質・能力について、単元の授業の最後に、「次回の授業でも、『比べる』『分ける』『つなげる』を使ってみたい」と児童が振り返っていた。これは、授業が意図したねらいや目標に向かうことができたことを表している。児童が本単元で学んだことを次の単元につなげ、身に付けた話型や思考スキルを汎用的な力へと成長させていくためには、国語科として学習を系統立てて積み上げていくことが必要である。また、考えを形成する上で必要な話型や思考スキルをその都度児童に明示し、学習をつなげていくことが有効であると考え。本研究においても明らかになったように、「伝える伝わるシート」も継続的に使用していくと、さらに効果的に活用できるのではないかと考える。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成29年3月） 東洋館出版社（2018）
- ・井上 尚美 著 『思考力育成への方略—メタ認知・自己学習・言語論理—』 明治図書（2007）
- ・奈須 正裕 桂 聖 著 『国語授業ユニバーサル・デザインのつくり方・見方』 学事出版（2016）
- ・伊崎 一夫 編著 『「見方・考え方」を鍛える小学校国語科の「思考スキル」』 東洋館出版社（2018）
- ・田村 学 黒上 晴夫 著 『考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業』 小学館（2017）

<担当指導主事>

尾形 一美 近藤 千香子